

日 文 研 究 室 だ よ り

二〇〇五年度

会 長 瀧 本 和 成

日本文学会は、昨年度創立五〇周年を迎えることができました。六月三日に行われた記念大会では、I部を上田博先生に「小泉茅三先生について」と題してご講演戴き、II部のシンポジウムでは「世界の中の日本文学」をテーマにフォックス、クリステヴァ、崔（報告書をご提出）三先生方の報告を軸にコメントターの問題提起と併せて会場（出席者）と白熱した議論が交わされました。

I部、II部を通して私たちは日本文学（研究）の内外両方に目を向けることの重要性を改めて自覚する機会となりました。そうしたなか、日本文学の魅力の再発見や研究することの意味、また文学（研究）を取り巻く現状と問題点を再認識する絶好の場となったと言えます。

「論究日本文学」第八一号（五〇周年記念号）と併せてこれらの問題を考えることはとても意義深いことと考えます。五〇年に互る日本文学会の良き伝統と日本文学研究の現代

的課題を共にしっかりと受け止め、一〇〇周年に向かって、今年度より新たな第一歩を着実に踏み出して行きたいと思っています。

学部改革では、昨年度より文学部学科制が人文学科に改組されたのに引き続き、来年度より大学院では各専攻が専修に統一され、それぞれの専修毎にコース制が導入されることとなりました。日本文学専攻もそれに伴い、専攻から専修と改名され、前期課程では三コース制を導入することとなりました。

大学全体では、JR二条駅前に学園本部及び法科大学院の建設が始まり、北大路では二〇〇六年四月立命館小学校が開校されます。また、滋賀県守山市に新しい附属高校が作られることが決定されました。年々改革のスピードが厳しさを増すなかで、変わらないことの重要性（価値）を主張することの困難さを実感する毎日です。いかに（バランス良く）生きる（存在する）かは単に個人にだけ求められている生活スタイルではなく、私たちが属している組織、社会全てに適用されるべき大切な思考（態度）なのではないでしょうか。

本年度より木村一信教授が文学部長となりました。当専攻からは水田潤先生以来の学部長就任です。木村新学部長ご就任を御祝いし、ご活躍を祈りつつ、そのリーダーシップにご期待申し上げます。